

観音寺市では、市内での新規創業を支援するため、毎年夏に経営ノウハウを学べるセミナーを開催しています。

また、観音寺商工会議所・観音寺市大豊商工会が創業後も経営の悩みに寄り添い、継続して支援しています。

「地元で新しく何かを始めたい」
 そう思う人は、一步踏み出してみませんか？
 市内で創業した人のインタビューを紹介します。

かんおんじ創業セミナー

新規創業に必要な心構えや知識を学びながら、事業計画書を作成していきます。

日時 7月22日(水)、29日(水)、
 8月5日(水)、12日(水)
 午後7時～午後9時(全4回)

場所 観音寺商工会議所

講師 中小企業診断士 森 昭博氏

対象 市内で創業を検討している人、
 後継者、経営に興味のある人

料金 無料

注意 事前申し込みが必要

問い合わせ先

商工観光課 商工労政係

☎23-3933

☎23-3956



中東情勢の悪化など、先行き不透明な状況だからこそ、事業計画書が必要です。近ごろはAIで手軽に作成できるようになりましたが、AIだけでは本当の事業計画書は作成できません。AIは世の中の膨大な情報を収集できても、創業しようとしているあなた自身のことは何も知らないからです。AIを活用するにせよ、自分が創業して何をしたいのか、強みや個性は何かを明確にする必要があるため、セミナー内で行う「自問自答のワーク」を活用してほしいです。

何が起こるか分からない時代だからこそ、いつ創業をはじめめるかは自分で決めたら良いと思います。世の中が変わることを期待してはいけません。このセミナーが自分自身を見つめ直し、答えを出すきっかけになればと思っています。

中小企業診断士
森 昭博さん



自分がやりたいことを明確にしよう

前職では、保険事務所に勤務していました。障害年金の申請を担当するようになり、この業務を先々すべて自分でできるようになれたらと思いい、社会保険労務士試験を受験。仕事と勉強の両立を続け、4度目の挑戦で合格しました。身近に個人事業主の知人が多く、大変そうですが、やりがいを持って仕事をしている姿を見て、自分も独立することを決めました。家族は「やってみるしかないんじゃない」と背中を押してくれましたね。

創業にあたり、観音寺商工会議所の方々にお世話になりました。元々、銭形まつりなどで交流があったので、届け出関係や資金計画の立て方などについて気軽に相談できてありがたかったです。また、市の創業者支援事業補助金を利用して、ホームページを作成しました。創業に向けたサポートは手厚かったと思います。

今は、障害年金申請サポ一

中四国障害年金相談センター
 代表 **請川 智章**さん



令和7年10月に「中四国障害年金相談センター」を創業。病気やけがで生活に不安を抱える人の力になりたい、障害年金の正しい情報を知り、正しく受給して日々の生活の安心に役立ててほしいという思いのもと、事業を運営している。趣味は、筋トレとギター。

自分で判断し、実現できるのが創業の良さ



ト事業をメインに活動しており、お客さまの多くは障がいのある方やそのご家族です。障害年金の申請に必要な書類作成や行政とのやりとり、医療機関との連携などを引き受け、心身の負担を軽減できるよう取り組んでいます。お客さまに「こうしてあげたい」と思ったことを自分の判断で実現できたり、「一人ではできなかった」「スムーズに進められてよかった」と喜んでもらえたりするとやりがいを感じますね。

独立後、不安がないわけではありません。依頼を受けてから成功報酬を受け取るまで約半年かかるため、新規の依頼があるまではやはり不安です。

今後は、大きく手広く事業を展開するよりも、依頼してくださったお客さまが、できるだけ障害年金を受給できるように、一件一件に対して責任を持ち、質を下げるような仕事をしたいと思っています。

幼いころからパティシエになることが夢で、小学校の卒業文集に「ケーキ屋さんになりたい」と書いていました。専門学校卒業後は、ケーキ屋やカフェで勤務し、パティシエとして経験を積んできました。

両親に「自分でケーキ屋をやってみたい」と伝えたところ賛成してくれて、父の事務所と母の工房を改築して店を開くことに。最初は、家族みんなが心配していましたが、たくさんの方の協力やご縁に恵まれ、無事にオープンすることができました。お店を使わせてくれていた両親には特に感謝しています。

店を開くにあたり、お世話になったのは大豊商工会の方々です。融資の受け方や銀行に提出する書類の確認など、いろいろな面でサポートしていただきました。創業セミナーにも参加し、そこで学んだことを業務に生かすことができています。また、市の創業者支援事業補助金を一部の設備に使わせていただきました。創業を考えている人には、

できると思ったら
とりあえずやってみよう



お菓子屋 USAGI 乙武 遥さん

令和7年9月、大野原町に「お菓子屋USAGI」をオープン。営業日は、金・土・日・月曜日。店名は、昔から乙武さんがうさぎの絵をよく描いており、相棒のような存在だったことから名付けた。看板の絵も乙武さんが描いている。趣味は韓国旅行で、直近ではことしの1月に訪れたそう。



とりあえず考えて、できると思ったらやってみてほしいです。私も不安はありましたが、作りたいものやしたいことがたくさんあったから、やってみようと一歩を踏み出すことができました。

店を開いてから、ケーキやお菓子を作り、お客さまとたわいない話をする毎日がとても楽しいです。一番うれしいのはやっぱり「おいしい」と言ってもらえることです。身近な存在のお菓子と、少し特別で「褒美のような存在のケーキ」。どんな時も、少しでも体に良いものをといたいという思いで、材料にこだわって作っています。なるべく砂糖の量を控え、上質な生クリームやバターを使用するなど、一人で作るからこそ妥協せずに作ることができているのもうれしいです。今では、リピーターさんや県外から来てくださるお客さまも増えました。6月から店内にカフェスペースも開設したので、少しずつメニューを増やし、癒やされる空間を提供していきたいです。